

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2025-006
2.研究課題名	嫌悪感情が性犯罪被害者への非難に与える影響に関する研究
3.研究期間	令和 6 年 7 月（倫理委員会承認後）～ 令和 10 年 3 月 31 日
4.研究の概要	意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての確に記すこと。） 従来、性犯罪の被害者非難を予測する要因が検討されてきたが、非難者の感情状態に焦点を当てた研究は少ない。こうした背景から、本研究では、非難者の嫌悪感情が被害者非難に影響するかどうか検証することを目的とする。こうした研究は、被害者非難の予防方策に関する基礎的知見として重要である。倫理的配慮として、研究参加を拒否できること、参加途中で随時中断できること、参加拒否や中断によって一切の不利益を被らないことを説明し、参加者に実験参加の自由を保障する。個人情報保護に関しては、実験で得られたデータは全て数値化して扱い、個人が特定できる内容は含めない。数値化されたデータは暗号化機能付き記憶媒体に保存し、厳重に保存する。データへのアクセスは、研究責任者及び研究分担者のみに限定する。 方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと） 研究 1 の予備実験では大学生男女約 270 名、本実験では Web 調査会社のモニタ約 1000 名を対象に、嫌悪的な被害者の提示が被害者非難に与える影響を質問紙実験によって検討する。参加者の募集は講義後や個別に行う他、調査会社のモニタを対象とする。実験では、参加者に嫌悪的な被害者か、嫌悪的でない被害者のいずれかが示された性犯罪ビネットを提示し、被害者非難の程度を質問紙で測定する。 研究 2 では、大学生男女約 70 名を対象に、嫌悪画像の提示が被害者非難に与える影響を実験室実験によって明らかにする。参加者に嫌悪画像かニュートラル画像のいずれかを提示し、その後被害者非難の程度を質問紙で測定する。 研究 3 では、大学生男女約 70 名を対象として、嫌悪感情の帰属原因の曖昧さが被害者非難に与える影響を実験室実験で明らかにする。参加者に嫌悪画像を提示した後、半数の参加者には感情の出所を明示し、残りの参加者にはそのような教示を行わない。その後、被害者非難の程度を質問紙で測定する。 問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと） 文学研究科心理学研究室（022-795-6048） 東北大学川内南地区「人を対象とした医学系研究」倫理審査委員会事務局（022-795-6103；sed-syom@grp.tohoku.ac.jp）

（紙面が不足するときには、罫線の縦幅を任意に増やし、次頁送りにしてください。）